慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	會告
Sub Title	
Author	
Publisher	三田史学会
Publication year	1928
Jtitle	史学 Vol.7, No.1 (1928. 3) ,p.153- 153
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19280300-0157

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

り。石を以て築造す。俗に寶塔と云ふ。老樹滿山、社殿參差、閑寂悠々の異境なり。靈廟を拜し、寶塔に謁し、寶物館に入る。

神寶甚だ多き中にも、家康の遺品、鉛筆、枕、時計（眞鍮製鐵機械、外覆黑革製、西暦千五百八十一年西班牙マドリッドに於て製造）等は特に注意を惹けり。

山を下り、羽衣の松に夢の國を想ひ、龍華寺の富士を賞し、庭内の大蘇鐵、仙人掌に驚き、隣接鐵舟寺を訪ふ。同寺は補陀山久能寺の廢寺となれるを惜み、幕末の傑士山岡鐵舟の再興せしものにして、舊時の觀音堂今猶存し、本尊觀音菩薩（行基七躰作の一躰は久能寺以來の傳寶なりといふ。家康陣中の大槍、久能寺緣起（康永元年壬子稔六月十七日、沙門白敬の奥書あり）今川義元の判物、足利忠義の證文、鐵舟遺愛の自然木の虎、清水の次郎長の木像等を觀る。

鐵舟寺より清水を經て、江尻に出て、五時廿分の列車にて歸京す。

斯くして二日に亘る見學旅行は、無事に愉快に終を告げぬ。

最後にこの行諸所に於て、見學の便宜を與へられし方々に對して、茲に謹んで感謝の意を表す。（淺子勝二郎）

會告

本會々費昭和二年度分未拂込の御方へは近日集金郵便差立可申候間御不在にても御支拂被下樣御願上候也

昭和三年二月

三田史學會